

「家庭基礎」学習指導案

広島県立広島散智学園高等学校

教諭 國重 杏

本学習指導案のポイント（中村 誉子 指導主事）

○高齢者の状況に合わせたレクリエーションを考案するという目標に向けて、グループ毎に利用者の心身の状況や特性を踏まえて検討し、共有して得た指摘を踏まえて練り上げていくという問題解決的な学習となっている。
○学んだ知識や技術を用いて総合的に判断しながらレクリエーションの実習を構想することができる単元構想となっており、高齢者の適切な関わりについて、複数の視点から考察させることができていた。

1 実施日：令和6年11月21日（木）5・6限：13時25分～15時00分（90分）

2 学年・学級：1学年B組（23名）

3 単元名：高齢者との関わり方

4 単元（題材）について

（1）単元観

本単元は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」の（A）「人の一生と家族・家庭及び福祉」の（4）「高齢期の生活と福祉」に位置付いている。ここでは、高齢期の心身の特徴や高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援及び介護についての基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、高齢者と適切に関わる力を養う。また、施設での高齢者の様子を観察し、生徒自身が考案したレクリエーションを実践する機会を設けることにより、目の前の個々の高齢者に対して適切な関わりを実践しようとする姿勢を育成する。さらに、高齢者施設での交流を通して、生徒の福祉マインド及びコミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。

（2）生徒観

事前に行ったアンケートでは、高齢者との関わりに興味・関心をもっている生徒は約70%で、普段から高齢者と接する機会があると答えた生徒も同じく約70%であった。これは、本校の島親制度等により、地域の人々と定期的に関わる機会があることに起因していると考えられる。一方で、高齢者との関わりに興味・関心が薄い生徒も一定数いる。また、寮生活の影響で、県外や海外にいる生徒自身の家族とは、メールや電話などの間接的な交流が主となっている。さらに、生徒は各自の課外活動を通じて施設訪問や地域の方々と交流を行っているが、今後、高齢者の心身の状態を考慮した活動計画力の育成が不可欠であると感じた。

（3）指導観

高齢者と直接的に交流することのできる場を設け、さらに、高齢者の心身の状況に応じた関わり方を体験的に学べるよう、施設と連携してデイサービス、ショートステイ、特別養護老人ホームの利用者とグループ別に関わる機会を設ける。寝たきり、座位中心の生活、一部身体が不自由等、様々な身体状況の高齢者に対し、心の状態も考えながら適切な関わり方を経験させる。このため、実習時間を1時間確保するだけでなく、事前に各グループのリーダーが施設の観察を行い、利用者の心身の状況を把握する。観察内容を踏まえてグループでレクリエーションを考案し、施設職員にプレゼンテーションを行い、フィードバックを受けてさらに内容を改善したうえで本番の実習に臨む。生徒が実習に対して受け身ではなく主体的に取り組み、高齢者に関わる意義や適切な関わり方を理解し、行動に移すことのできる力を育成することを目指したい。

5 単元の目標

高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、高齢者との適切な関わりができる。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。	高齢者の自立生活を支えるために共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	高齢者との適切な関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

7 指導と評価の計画（全12時間）

次	学習内容（時数）	評価			
		知	思	態	評価方法
1	高齢期とは（2時間）	◎			*高齢期の特徴と、高齢者の心身の状態について理解している。 *高齢者の心身の状態に合わせた、適切な関わり方を理解している。
2	高齢者を支える社会（2時間）	◎			*高齢期を支える社会のしくみについて理解している。
3	レクリエーション内容の考案（2時間） 本時		◎	○	*高齢者の心身の状態を理解した上で、可能・不可能な動きを考えながら、具体的なレクリエーションの内容を工夫している。 ・高齢者との関わり方について関心をもち、主体的に取り組んでいる。

・最終レポート
（総合的評価課題）
・グループワークス
ライド

4	レクリエーションの再考 (2時間)		◎	○	*施設職員のフィードバックをもとに、高齢者に合わせた具体的なレクリエーションの内容を再考・修正している。(振り返って改善しようとする。)	・最終レポート (総括的評価課題) ・グループワークス ライド
5	施設実習(2時間)	◎		○	*施設利用者の方に合わせてコミュニケーションをとることができる。 ・グループで協力して交流会の進行を行うことができる。(実践しようとする)	・最終レポート (総括的評価課題) ・グループワークス ライド
6	振り返り(2時間)			○	*考案したレクリエーションが適切であったか、適切な関わりができたか、振り返ることができる。	・最終レポート (総括的評価課題) ・グループワークス ライド

8 本時の展開

(1) 本時の目標

観察した内容から、高齢者の状況に合わせてレクリエーションを考案することができる。

(2) 観点別評価規準

・施設実習に向けた観察・提案・改善・実施を通して、高齢者の心身の状況に合わせてレクリエーションを考え表現することができる。

【思考・判断・表現】

・高齢者との関わり方について関心を持ち、主体的に取り組んでいる。【主体的な学習に取り組む態度】

(3) 準備物

Creative Living 「家庭基礎」で生活をつくろう(大修館書店)、PC

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
導入 10分	1 リーダーが観察してきた様子の写真を全体に共有する。 2 今後の流れの再確認をする。 3 本時の目標を知る。	○観察に行っていないリーダー以外の生徒も施設の状況が把握できるように説明する。 ○施設職員へのプレゼンテーションの日程と、実習日を確認し、見通しを持たせる。	・最終レポート(総括的評価課題)
	観察した内容から、高齢者の状況に合わせてレクリエーションを考案することができる。		
展開① 70分	1 観察してきた内容の共有(5分) 2 レクリエーションの妥当性を検討し、中身を具体的に考案する。レクリエーション提案書の作成。(20分) 3 各グループのレクリエーション内容を、全体にプレゼンテーションする。(各3分、計15分) 4 レクリエーションに必要な道具の製作(30分)	○施設の様子、利用者の状況や人数、職員の方の様子等、レクリエーション製作に必要な情報を確認する。 ○安全性や内容の難易度等が、利用者の心身の状況に合った適切なレクリエーションであるか、観察した内容を元に考案する。 ○実際に施設職員へプレゼンテーションすることを念頭にまとめる。 ○製作上の留意点を示す。	・最終レポート(総括的評価課題) ・グループワークスライド ・行動観察
まとめ 10分	1 リフレクション 2 今後の流れの再確認	○授業内で活用したスキルとエビデンスを示す。	・リフレクションシート

(5) 判断基準

評価	思考・判断・表現
A(十分満足できる)	総括的評価課題において、施設実習に向けた観察・提案・改善・実施を通して、高齢者の身体状況に合わせてレクリエーションを論理的に表現している。
B(おおむね満足)	総括的評価課題において、施設実習に向けた観察・提案・改善・実施を通して、高齢者の身体状況に合わせてレクリエーションを表現している。
C(努力を要する)	総括的評価課題において、施設実習に向けた観察・提案・改善・実施を通して、高齢者の身体状況に合わせてレクリエーションを簡単に表現している。または表現していない。